

# ハドソン川を挟んで

## 米國コロンビア大学からの便り ②



### 経済学部教授 高橋宏幸

Hiroyuki Takahashi

#### 授業料・生活費で年間600万円

創立1754年、今年でおよそ250年の歴史をむかえるコロンビア大学(Columbia University)は、現在マンハッタン島の北部、アップ・タウンのハーレムに隣接するところ、地下鉄ではブロードウェイ線の116丁目を下車したところにキャンパスの正門がある。良きにつけ、悪しきにつけ、ニューヨークの大会にすることが、コロンビア大学を決定的に特徴づけていることは今も昔も変わらない。だから人が大都会に寄せる特有のダイナミズムとかエキサイティングなものへのあこがれがそのままコロンビア大学にも向けられている。しかし、それは反面学生の自殺者数が全米でもトップ・クラスといういささか不名誉な記録を残す

結果となっている。くわえて、これといって強いスポーツも無く、かつての優秀な金持ちの子女が入学するところというイメージも、今では他の私立大学ばかりでなく公立大学の授業料もかなり高額になったため、コロンビア大学の授業料が際立って高いという印象は薄れてきている。ご多分に漏れず、自宅からの通学生と周辺に部屋を借りて通学する学生とでは、場所柄かかる費用はかなり違う。また、学部生と大学院生とでも異なってくることは言うまでもない。大学案内をひもとくと、2001-02年度の授業年度の場合、概算で年間以下のようになる。

これはあくまでも一つの目安に過ぎない。たとえば、マンハッタンでワンルームタイプの部屋を借りるとなると月額\$1200から\$1500

0を支払っている学生も少なくないし、学内の食堂でも1回で\$5から\$8くらいはかかるし、いつも大学内で食事というわけにはいかないか

表1. 入学後の年間費用

	カレッジ	
	(下宿生)	(自宅生)
授業料	\$ 25,970	\$ 25,970
医療サービス料他	938	938
平均的な部屋代、食事代	8,282	さまざま
本代、雑費	2,060	2,060
旅費	さまざま	さまざま
計	\$ 37,250	\$ 28,968

ら、食事代で月に最低\$600くらいは予定しておく必要がある。したがって、部屋代、食事代は上記の表に示された額の3倍ほどが最低でも見込まれる。そうすると、合計で年間約5万ドルかかることになる。これを現在の平均的な為替レートで

ある\$1=120円で計算すると、600万円にもなる。大都会ニューヨークでの学生生活はとんでもなく高くつくことは確かである。日本でこれだけ高額の費用が年間かかる大学といたら一部の私大医学部くらいであろう。これはあくまでも日本の学部にあたる undergraduate のことで、大学院となるとまた話が違う。

#### ビジネス・スクール・ランキングの一喜一憂

日本の大学と比べてアメリカでは有力大学のかなりが大学院中心の大学であることは、学生に比べはるかに多い院生の数を見てもわかる。例えば、コロンビア大学の場合、学生総数約2万人であって、学部生と院生の割合はだいたい1対3となっている。ビジネス・スクール(経営大学院)、ロー・スクール(法科大学院)あるいはメディカル・スクール(医科系大学院)といった大学院が学生数の圧倒的な割合を占めている。私が客員研究員 (visiting scholar) として籍を置くビジネス・

スクールは、各種実施されているビジネス・スクールのランキング調査結果で常にトップ10に顔を出す名門として知られている。ちなみに、03年1月20日付けの「ファイナンシャル・タイムズ」(Financial Times)に掲載されていたグローバルなビジネス・スクールのトップ10について調査結果によれば、第1位ペンシルバニア大学ウォートン校、第2位ハーバード・ビジネス・スクール、第3位コロンビア・ビジネス・スクール、第4位スタンフォードGSB、第5位シカゴ大学GSBである。こうした調査結果に敏感なのが大学当局で、名誉ある結果として早速学内新聞や掲示で知らされる。

傍目からすると、どうしてそんなことに一喜一憂しなければならぬのかと思ってしまう。事実、ランキング調査は驚くほどいろいろあり、それらの調査結果にはかなりバラツキがあることから過信は禁物である。たとえば、表2の「ビジネス・ウィーク誌」(Business Week)による2000年度の調査結果と「USNews & World Report 誌」のベスト大学院それと「ウォール・

ストリート・ジャーナル紙」(Wall Street Journal)の02年9月9日に掲載された会社のリクルーターによるランキングを比較してみれば幾つかの意外な結果を見つけることができる。

このウォール・ストリート・ジャーナル紙に掲載された会社のリクルーターによるランキングは、スタンフォードを驚くほど低く評価している一方、他に比べかなり小粒なダートマスのビジネス・スクールの最高位にランク付けていることである。また、この表には出ていないものの、コロンビアも昨年は34位と芳しくなかったのが、今年は一転して10位に滑り込んだと言うのが実情である。結果が思わしくないとその評価には否定的な態度をとるのが一般的で、社会的評価が高く、発行部数も多いウォール・ストリート・ジャーナル紙であるため大学当局の反応も深刻である。コロンビア・ビジネス・スクールのデイーンであるフェルトバーク(Feldberg)教授は「重要なことはこれが何百万の読者に読まれ……数字の背後にある方法には関心を払わず、ただ読んだことが事

表2. ビジネス・スクール・ランキング

ビジネス・ウィーク誌	U.S.News & World Report 誌
1. ペンシルバニア (ウォートン)	1. スタンフォード
2. ノースウェスタン (ケロッグ)	2. ハーバード
3. ハーバード	3. ペンシルベニア (ウォートン)
4. MIT (スローン)	4. MIT (スローン)
5. デューク	5. ノースウェスタン (ケロッグ)
6. ミシガン	6. デューク
7. コロンビア	シカゴ
8. コーネル	8. コロンビア
9. バージニア	9. ダートマス・カレッジ
10. シカゴ	10. カルフォルニア大バークレイ (ハース)
11. スタンフォード	ミシガン
	バージニア
ウォール・ストリート・ジャーナル誌	
1. ダートマス (タック)	7. オースチン
2. ミシガン	8. エール
3. カーネギー・メロン	9. ハーバード
4. ペンシルバニア (ウォートン)	10. コロンビア
5. ノースウェスタン	38. スタンフォード
6. シカゴ	

実として受け止められてしまうということなのだ」と半分諦めとも、嘆きともとれるコメントをしていた。

それでもトップ・ランキングに名前を連ねることができれば勲章で、高い授業料を払ってでも志願する優秀な学生を確保する上でかなり功を奏しているようである。これはあくまでもこのビジネス・スクールが良いのかを表しているにすぎず、研究したい特定の研究領域のランキングではない。もちろん、ランキングにあたっては様々なファクターを考慮し、それらをウエイト付けし算出した総合得点が基礎になっているのでそれなりに客観的なものではある。たとえばビジネス・スクールの場合、授業料も割高で、授業料、医療サービス料等を含めた年間の納入金はコロンビアのビジネス・スクールで約\$32000である。この高い教育投資も称号(MBA(経営学修士))を取得し就職するや初年度で約\$120000のサラリーを貰え、昇進も早い。言うなればMBAコースの学生は現代のビジネス・エリート予備軍なのである。

ただ一口にビジネス・スクールと

いつても、それぞれ得意分野を持つ

ていて、その分野の研究者、スタッフ  
が充実しているのが一般的である。  
したがって、もしマーケティングに  
関心を持つていて将来そのスペシャ  
リストを目指すのであればノース  
ウエスタン、情報理論や意思決定の  
計量的研究に関心があるのであれば  
MITやカーネギーメロンといった  
研究内容で定評のあるビジネス・ス  
クールを検討すべきであろう。それ  
にもまして、日本とは比較にならな  
いほど大学やビジネス・スクールの  
あるアメリカではトップ10にこだわ  
ることはあまり意味がない。それよ  
りも、トップ50くらいまで幅を広げ  
てみた方が、研究や教育に情熱的で  
挑戦的で優れた実績を上げ研究施設  
に恵まれている大学やビジネス・ス  
クールを見つけることができる。

ところでコロンビア大学も秋が深  
まると、タンクトップや半袖姿のラ  
フな格好は消えスーツを身にまとい  
た学生達の姿が目立ち始める。この  
豹変ぶりは日本と同様で、ちがうと  
すれば彼らの平均年齢が28から29歳  
と高く大人びていることや37%を超  
える女子学生の姿が目立つことであ

ろうか。

この学生達の前職を見てみると日  
本では考えられないような異色な人  
材が集まっていることが分かる。午  
前8時15分から始まる「企業成長と  
発展」の講義に休まず、誰よりも早  
く来て熱心に質問をしていた女子学  
生の前職はなんとトラック運転手で  
あったし、カー・ディーラーのセー  
ルスマンやバレエダンサーをして  
いた者もいた。それにくわえて、近  
年伸長目覚ましい中国をはじめとす  
る世界各国からの留学生がコロンビ  
ア・ビジネス・スクールの国際色を  
一段と強めている。

### 56カ国からの留学生

03年4月20日からの入学志願者状  
況について、7500人の応募者が  
あり、前期に比し27%の増加、受け  
入れは11%の減が報告されている。  
応募者のうち約12%が合格し、春  
と秋の入学者で年間約6000人  
程度を見込んでいる。志願者の、約  
40%が米国外で出生した者で、うち  
28%が海外からの留学生となつて  
いる。驚くべきはかれらの出身国が  
56カ国におよび、65言語が使用され

ており、72%が2カ国語を話すバイ  
リンガルである。またその平均年齢  
は27・5歳、最年少が22歳、最年長  
が38歳、既婚者18%、女性34%であ  
る。このように世界各国から多種多  
様な優秀な人間が集まり、2年間を  
「Columbia MBA」(コロンビア  
大学経営学修士)のビジネス教育に  
一心不乱で取り組むわけである。ビ  
ジネス・スクールの学生達の勉強  
量はすさまじく、講義の最初の時間  
に配られる「講義読本とケースブッ  
ク」はゆうに600ページを超える  
ぶ厚いもので、講義を4つもとれば  
復習と予習で1週間は完全に潰れて  
しまう。また、ディベート(討論)  
を重視するビジネス・スクールの講  
義ということもあって、グループで  
課題に取り組みそれを報告するとい  
う講義も多く、図書館で夜遅くまで  
集まって報告書の作成に余念がない。  
国を超え、人種を越え、額を寄せ合  
い真剣に取り組んでいる光景はなん  
とも羨ましいかぎり、それが卒業  
しても堅い絆で結ばれているとな  
ると大学にとっても彼らにとってもか  
げがえのない財産であることは間違  
いない。